

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な資料とする。

### 2. 調査の設計

- |              |                                 |
|--------------|---------------------------------|
| (1) 調査地域     | 相模原市全域                          |
| (2) 調査対象     | 18歳以上の相模原市在住者                   |
| (3) 標本数      | 3,000人                          |
| (4) 抽出方法     | 住民基本台帳からの等間隔系統抽出                |
| (5) 調査方法     | 郵送調査法（郵送に準じた配付－郵送回収、はがきによる督促1回） |
| (6) 調査期間     | 令和3年6月25日～7月15日                 |
| (7) 調査機関     | 株式会社エスピー研                       |
| (8) 有効回収数（率） | 1,428（47.6%）                    |

### 3. 調査の内容

令和3年度 市政に関する世論調査は、8の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 広報について	問1～問4
2 <small>エスディージーズ</small> SDGsについて	問5～問7
3 <small>アイシーティー</small> ICTに関する利用状況や要望について	問8～問11
4 健康づくりについて	問12～問17
5 里親制度の認知度について	問18～問19
6 高齢者の生きがいづくりなどに関する取組について	問20～問21
7 自転車の安全利用について	問22～問26
8 市職員の接遇について	問27～問28
基本属性（年齢、居住地等）	F1～F8

### 4. 区別

地域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5. 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	303	155	51.2%
	大沢	141	67	47.5%
	城山	33	12	36.4%
	津久井	95	48	50.5%
	相模湖	100	44	44.0%
	藤野	34	13	38.2%
	<b>緑区計</b>	<b>706</b>	<b>339</b>	<b>48.0%</b>
中央区	小山	85	27	31.8%
	清新	132	43	32.6%
	横山	59	22	37.3%
	中央	147	132	89.8%
	星が丘	76	23	30.3%
	光が丘	114	47	41.2%
	大野北	252	81	32.1%
	田名	126	70	55.6%
	上溝	143	75	52.4%
	<b>中央区計</b>	<b>1,134</b>	<b>520</b>	<b>45.9%</b>
南区	大野中	267	118	44.2%
	大野南	325	166	51.1%
	麻溝	76	39	51.3%
	新磯	56	26	46.4%
	相模台	180	75	41.7%
	相武台	78	31	39.7%
	東林	178	90	50.6%
<b>南区計</b>	<b>1,160</b>	<b>545</b>	<b>47.0%</b>	
地区不明		0	24	-
<b>合計</b>		<b>3,000</b>	<b>1,428</b>	<b>47.6%</b>

## 6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、( )内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,428である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.65以内(47.35%～52.65%)とみることができる。

## &lt;標準誤差の表&gt;

回答比率 回答者数	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,428	±1.59	±2.12	±2.43	±2.59	±2.65

$$\text{※標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率} (1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

※標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。